

2018年6月27日

第11次中期3カ年計画について 2018年度～2020年度

「100年企業への挑戦」

2018年6月28日株主総会用資料

- [1] 資源事業の収益拡大
- [2] 製錬事業の収益改善
- [3] 将来への種まき

[1] 資源事業の収益拡大

1. 安全安定操業

- 年間粗鉱処理量140万トン体制を維持
- 収益の安定的確保を目指す



2. 豪 CBH 社の収益性向上と山命延長

- ラस्प鉱山: 高品位鉱体開発による収益性向上
- エンデバー鉱山: 深部鉱体開発による山命延長

エンデバー鉱山: 深部鉱体開発による山命延長

2017年度から実施してきた深部探査の成果を2018-2020年3カ年操業計画に反映
2019年以降は地表下1,000mより深い鉱体からの採掘が中心

Target 2/4

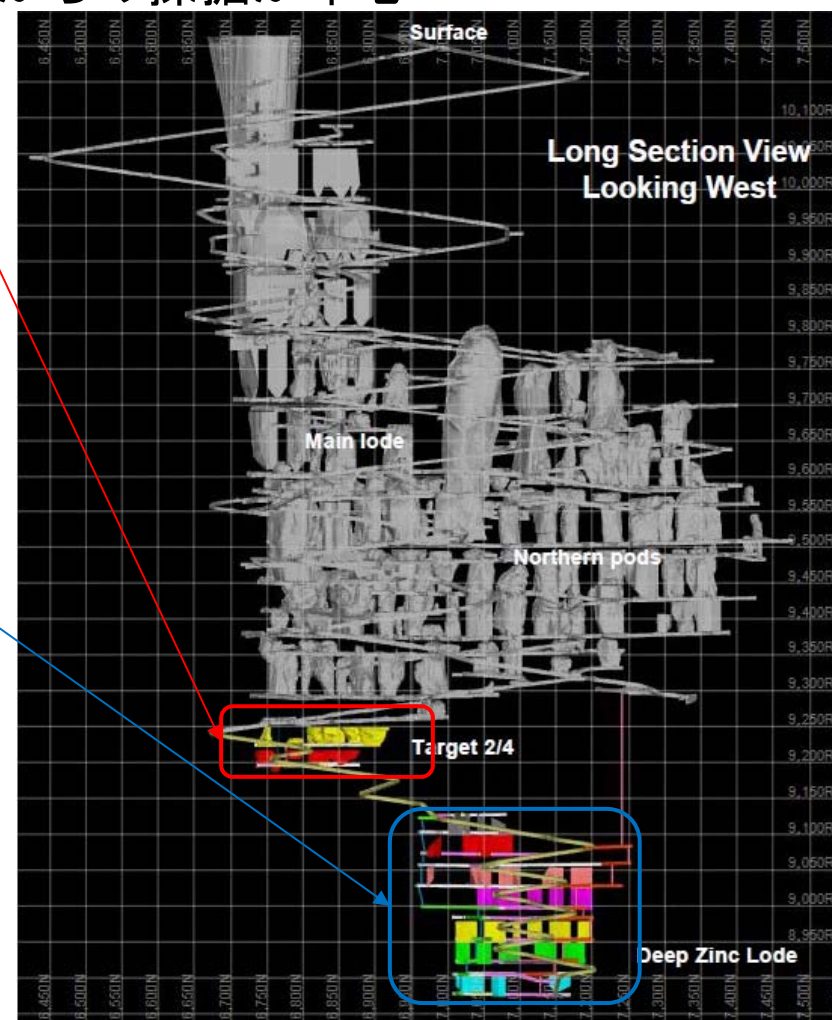
2019年前半の生産開始を目指し坑道掘進並びに坑内インフラ整備が進行中

Deep Zinc Lode上部

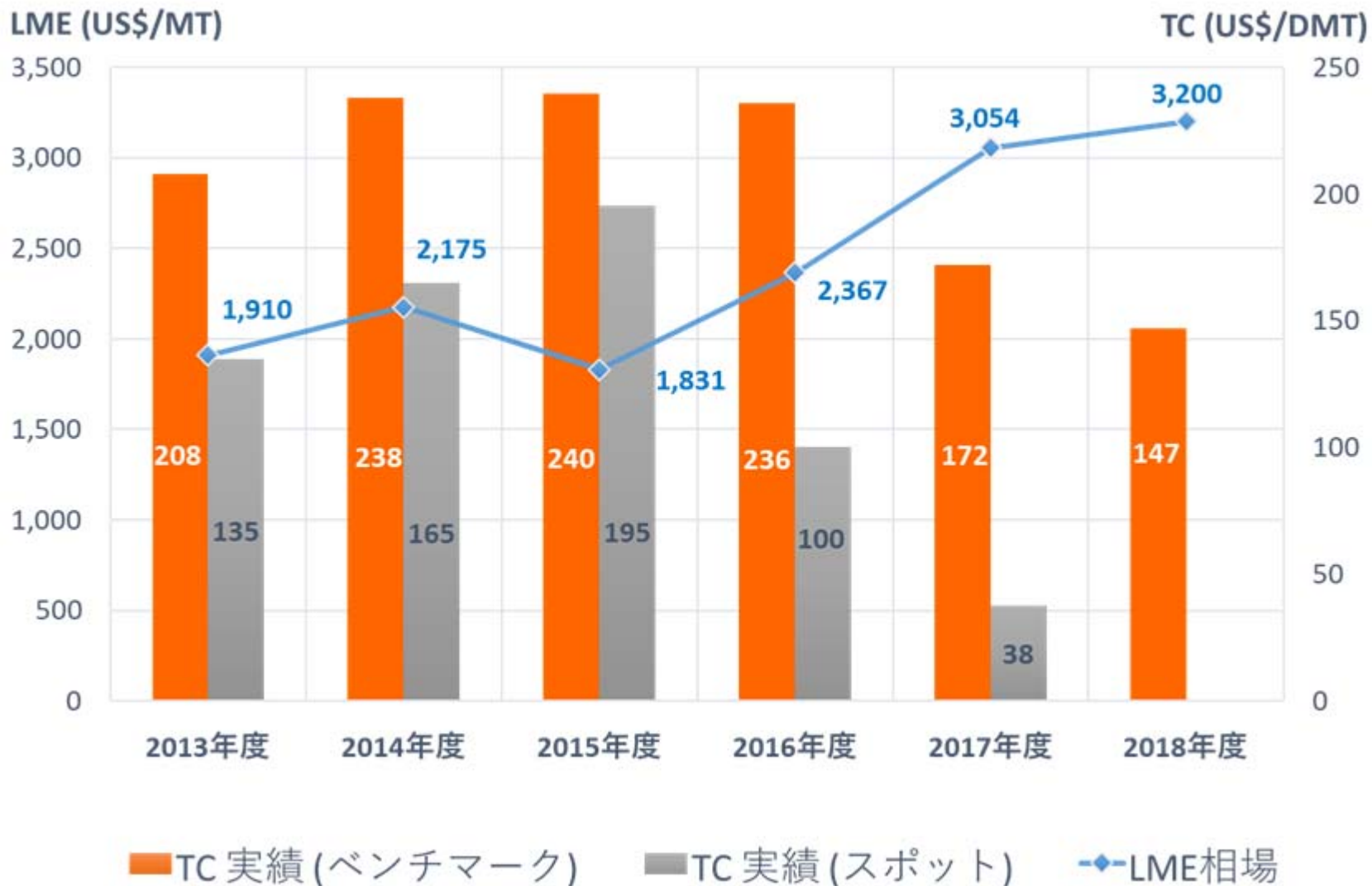
2019年後半の生産開始を目指し坑道掘進を開始

Deep Zinc Lode追加鉱体

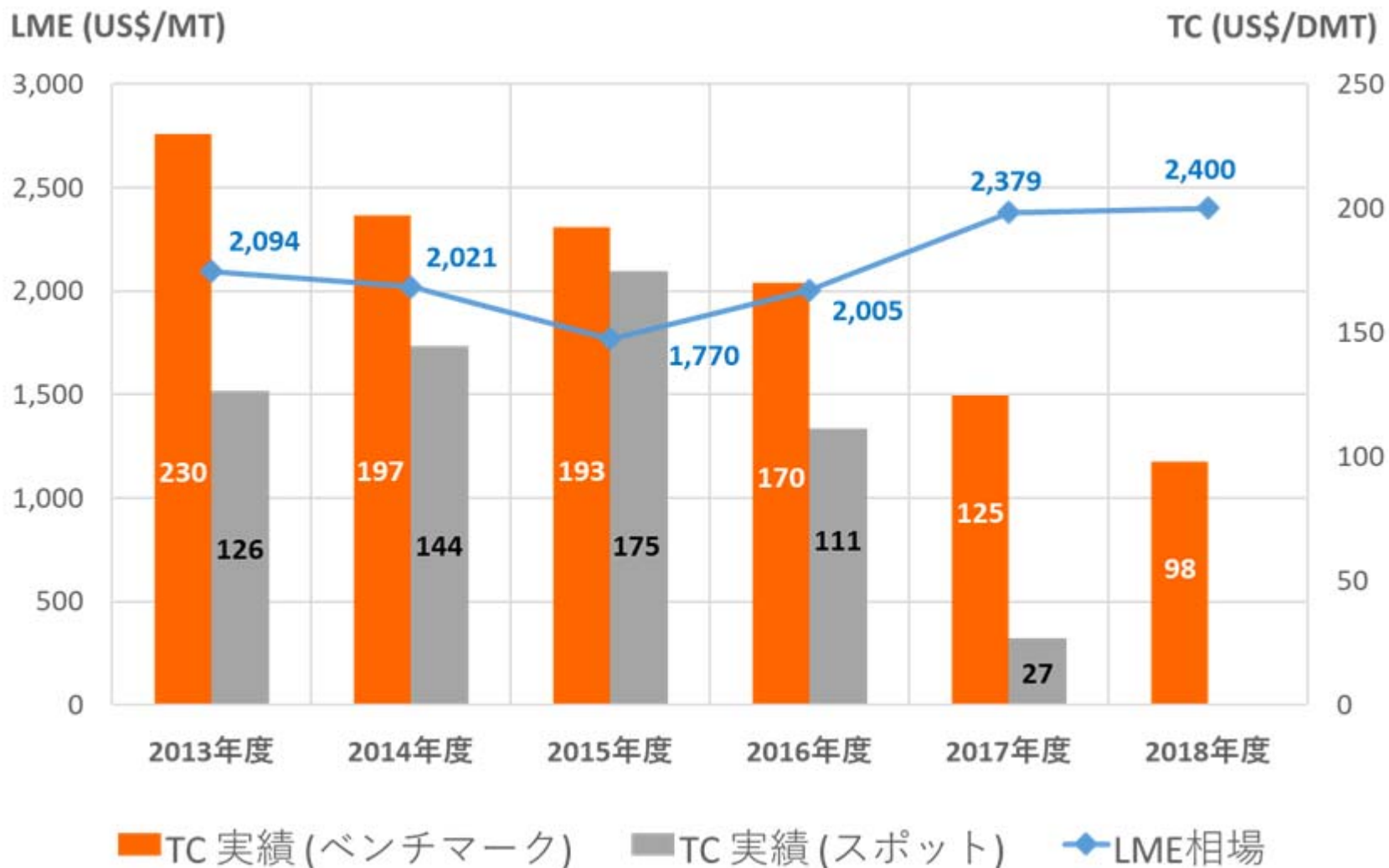
上部へ続く坑道に深部探査用の土台を設け、Deep Zinc Lodeの可採鉱量増加を目指す



LME 価格と製錬費 (TC) の推移 : 亜鉛



LME 価格と製錬費 (TC) の推移 : 鉛



[2] 製錬事業の収益改善

1. 亜鉛事業

- ・過去5年収入の主力であった製錬加工費が大きく減少
対策として製錬工程変更に向けたテスト開始
- ① 亜鉛及び副産品の回収率アップ
- ② 諸資材使用原単位改善

2. 鉛事業

- ① リサイクル原料比率のアップ
- ② 有価金属の回収強化

[3] 将来への種まき 資源事業

1. 豪 CBH 社の経験と経営資源を活用した新規案件発掘

- 豪 CBH 社の近隣周辺鉱区
- 必要に応じ小規模探鉱会社との JV 組成

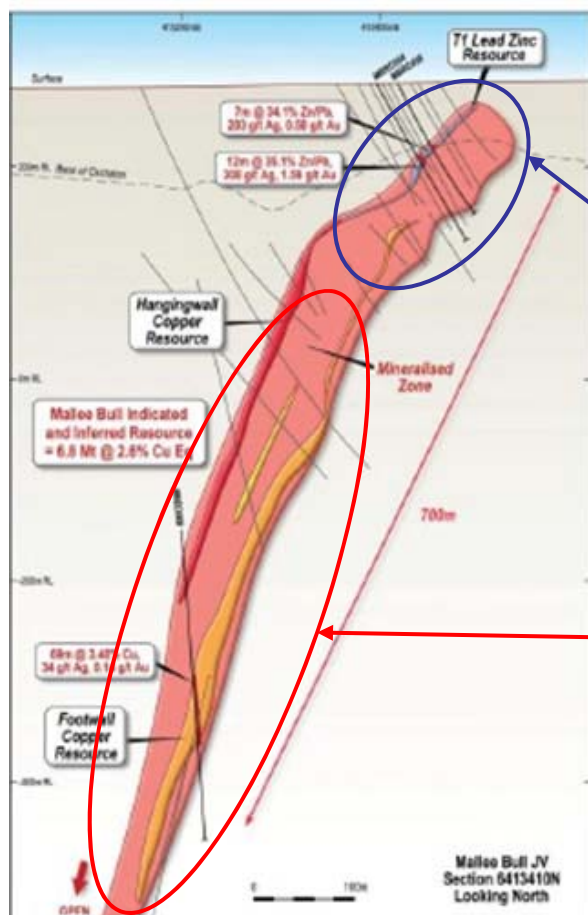
2. 北中米など豪州以外の新規案件も将来的に視野

- 有望案件を推進する現地小規模探鉱会社と連携を検討中

豪CBH社の経験と経営資源を活用した新規案件発掘

マリーブル探査プロジェクト (豪CBH社 50%:豪Peel Mining社 50%)

- 場所 : エンデバー鉱山の南150km
- 資源量 : 6.76百万トン 銅相当品位 2.6% (2017年7月時点)



第一段階

事業経済性評価を実施中 (2018年央目途)

対象: 地表付近の亜鉛鉛鋳体、及び
深度180m-300mの銅鋳体

採掘: 坑内掘り

選鉱: エンデバー鉱山選鉱場

第二段階

上記亜鉛鉛鋳体、及び銅鋳体への坑道を土台として深部鋳体の資源量確認の為の探査を行う

鋳体断面図 (北向き)

3カ年収支計画 前提

	実績	計画		
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
亜鉛(米\$/t)	3,054	3,200	3,200	3,200
鉛(米\$/t)	2,379	2,400	2,400	2,400
銀(米\$/toz)	17	17	17	17
円/米\$	110.9	105	105	105
米\$/豪\$	0.775	0.78	0.78	0.78

3カ年収支計画 事業部別

	実績	計画		
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
製錬(億円)	33.3	10.0	10.0	10.0
資源(億円)	73.5	81.0	89.0	62.0
電子部材(億円)	5.6	6.0	7.0	8.0
環境・リサイクル(億円)	20.1	20.0	21.0	23.0
その他(億円)	8.5	5.0	5.0	7.0
調整額(億円)	△ 9.9	△ 12.0	△ 12.0	△ 10.0
営業利益合計(億円)	131.0	110.0	120.0	100.0

3カ年収支計画

	実績	計画		
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
売上(億円)	1,336	1,370	1,420	1,420
営業利益(億円)	131.0	110.0	120.0	100.0
経常利益(億円)	131.6	108.0	120.0	100.0
当期利益(億円)	103.7	93.0	105.0	80.0
EBITDA(億円)	189.8	173.0	187.0	173.0

*なお株主様への還元については、従来通り短期業績に関わらず、安定配当を目指します。(2018年度@125円)

